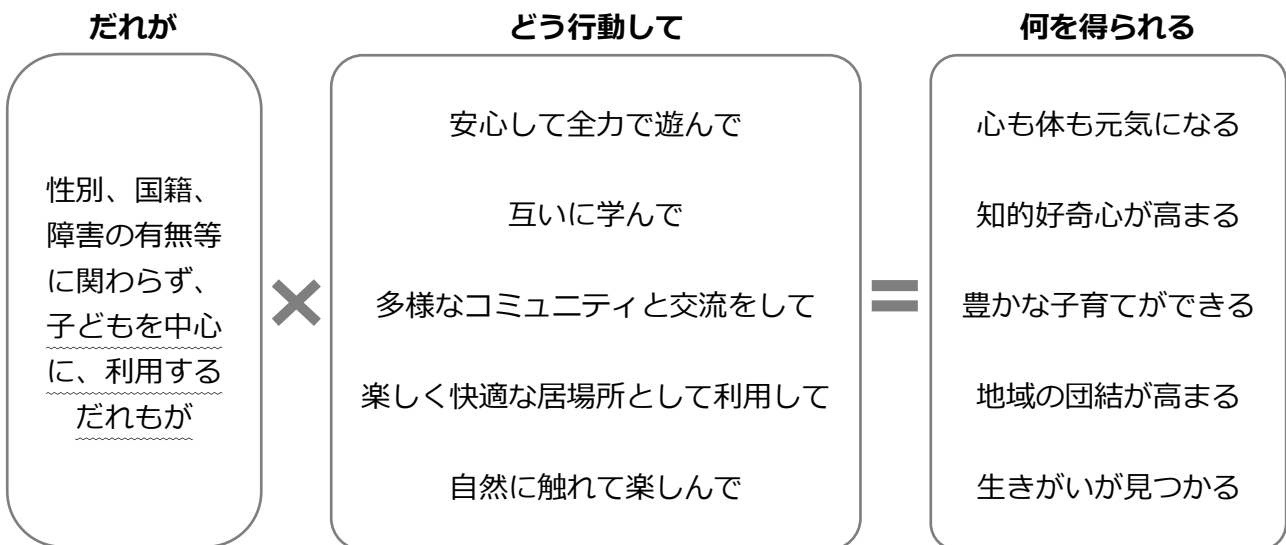


事業コンセプト（案）

1. 過去に実施した市民意見交換会・市民ワークショップで得られた利用者ニーズ

新施設全般		
多様な交流でコミュニティが形成できる場所／勉強にとどまらず学べる場所／安全、快適に過ごせる居場所／多目的に利用できる場所／持続可能な運営		
児童館	中央図書館	中央公園
安心して子どもが全力で遊べる場所／多様な遊びができる場所／子ども主体で成長できる場所／学習的イベントができる場所／親の交流も深まり、子育て支援ができる場所	読書の楽しさや大切さを体感できる場所／多様な情報に触れられる場所／知りたいことを突き詰められる場所／地域の歴史を学ぶことができる場所	幼児～中学生までが全力で遊べる場所／多様な遊びができる場所／自然に触れて楽しめる場所／イベントができる場所

2. 1を踏まえた、新たな施設（児童館・中央図書館・中央公園）のイメージ



⇒アクティブ（積極的・能動的）で持続的に活動できるイメージ※

※具体的な活動のイメージやその実現に向けた方針、施設の整備方法、運営体制等については、第2回検討委員会で提示した「資料2：提供サービス（案）」を踏まえ、第3回検討委員会「資料2：建設計画（案）」、「資料3：配置計画（案）」、「資料4：管理運営方針（案）」に記載しています。

3. 事業コンセプト（案）

こころ踊る出会いがあり のびのび・すくすく・いきいき過ごす 未来創造拠点

～事業コンセプト（案）に込めた思い～

昭和のはじめ、まだ広大な雑木林が残されていた清瀬には、かつて「不治の病」として恐れられた結核療養所が次々と建設されました。本事業の整備予定地は、清瀬で最初に建てられた結核療養所である、府立清瀬病院跡地の一画に位置します。今や結核は、「療養するしかない時代」から「治療が可能な時代」へと進化しましたが、長らく「療養」を支えてきた清瀬は、結核対策の聖地“KIYOSE”として国際的にも知られており、本市の誇りとするところです。

そのような歴史のある地に、児童館を新たに整備するとともに、中央図書館・中央公園と複合化することで、様々な機能が融合し、様々な世代・様々なグループ間の活動や交流が生まれ、地域の活性化、ひいては清瀬市全体の活性化に資する新たな拠点を創出するという思いから、上記の「こころ踊る出会いがあり のびのび・すくすく・いきいき過ごす 未来創造拠点」を事業コンセプト（案）としてお示しします。

新たな拠点には、子どもを中心に、利用するだれもが、将来への希望を持ち、のびのび・すくすく・いきいきと過ごせる環境づくりが求められています。その実現に向けては、子どもたちが自主性を発揮できる場所とすることを第一として、大人たちが温かく見守り、支え、みんなが互いを理解し、学び合いながら、他に類のない魅力的な拠点を一緒につくりあげていく、そのような心持ちが必要です。

現代に生まれた子どもたちが大人になったときに、この新たな拠点が幼い頃の良き思い出の地となるとともに、ふるさとである清瀬市の誇りと思えるような場所となることを目指し、本事業の整備に向けた検討に取り組んでいます。